

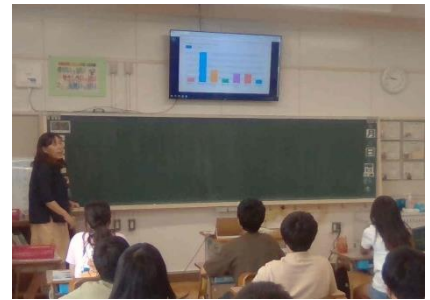
6月20日（火）、6年3組で道徳科の努力点公開授業が行われました。

主題は「友達を信じるとは」で、題材は「ロレンゾの友達」です。この授業では、警察に追われているロレンゾについて、逃がすか、自首を勧めるかを話し合う活動を通して、友達がどんな存在なのかに気付くことができますようにします。

事前に聞いていた「友達とは何か」というアンケートに対し、児童の答えの中で最も多かった答えは、「一緒にいて楽しい人」でした（児童は二つの項目を選択できる）。

その後、題材を読み、四人の登場人物の置かれている状況について確認をしました。

- ・ ロレンゾと三人は親友で、20年ぶりに再会する
- ・ ロレンゾは会社のお金を持ち逃げして警察に追われている



【アンケート結果を確認する児童】

次は、ロレンゾに対し、他の三人がどうしたいのかを確認しました。次の三つです。

- ・ 逃がす
- ・ 自首を勧める
- ・ 警察に言う

そこで、教師が、「あなただったらどうする？」と投げ掛けました。すると、児童は「理由を聞く」や「自首を勧める」など、自分の考えをプリントに記述しました。

物語の後半では、ロレンゾが無実だと分かります。三人は安心して、ロレンゾを迎え入れ、昔話をしますが、三人がロレンゾに自首を勧めるか、警察に言うかという話をしていたことには触れませんでした。そこで、教師が、「あなただったら、話していたことを伝えますか」と投げ掛けました。すると、「伝える」と「伝えない」とで意見が分かれしました。

その後、グループに分かれ、互いに意見を交流しました。児童は、互いの考えの違いに気付きましたが、考えを言うだけで、根拠を基に話したり、相手の考えに質問したりすることはありませんでした。そこで、教師が、「グループで意見を一つにしてください」と課題を与えました。

すると、児童は、自分の意見を友達に納得させるために、「友達に隠し事をしてはいけないから」や「相手が嫌な気持ちになるかもしれないから」など、意見の根拠を示しながら、活発に話し合うようになりました。そして、どの理由も、ロレンゾのことを思っていることであることを確認しました。



【意見を活発に交わす児童】

最後に、もう一度「友達とは」という質問を投げ掛けました。すると、「信頼できる人」という答えが最も多くなりました。他にも、「困ったときに助けてくれる人」という項目も9人から13人に増えました。児童

友達とは	1回目	2回目
一緒にいて楽しい人	21人	9人
信頼できる人	7人	20人

【1回目と2回目のアンケート結果の比較】

は、話し合いを通して、友達とは、「一緒にいて楽しい」だけではなく、遠くにいても、互いに信じあえる大切な存在であるということに気付いてくれたと思います。改めて、自分の考えを話したり、相手の考えを聞いたりする力を伸ばす必要性が分かりました。